

# 地域資源を活かした復興計画に関する設計提案 -大槌町の湧水に着目して-

## Design Proposal for a Reconstruction Plan Utilizing Local Resources - Focusing on Spring Water in Otsuchi Town-

準会員 相澤佑斗  
正会員 友瀨貴之  
宮城大学 事業構想学群

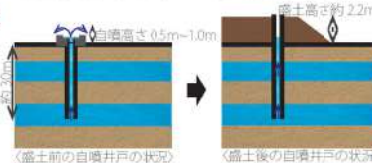
AIZAWA Yuto  
TOMOBUCHI Takayuki  
Miyagi University School of Project Design

### ■ 設計趣旨：失われた湧水を中心とした暮らしの再生

岩手県大槌町町方地区は、狭い範囲に湧水が多数自噴している地域である。このような特徴を持つ町方地区では、飲み水や洗い場など生活水として利用され、中には住宅内部で自噴する湧水も見られた。さらに、共同の洗い場や井戸端会議などの住民同士が集い、持続的なコミュニティ形成の場となっており、湧水が人々の暮らしと密接に関係し、地域アイデンティティとして湧水を中心とした暮らしが生まれ、重要な役割を果たしていた。また、希少種の淡水型イトヨやバイカモなどの希少生物の生息地となっており、震災時には住民たちが利用していた自噴井戸がポケットとなり淡水型イトヨが絶滅を免れるなど、生態系にも大きな影響を与えている。

このように、住民たちの生活に対して多大な恩恵を与えていた湧水であったが、復興計画による居住エリアを2.2mの高さまで盛土したことにより、自噴することができなくなってしまった。そのため、震災以前90箇所あった自噴する湧水の数は、震災後200箇所近くまで増加したが、現在は十数カ所にまで減少してしまっただ。こうして、湧水とともにあった町方地区での暮らしは、失われてしまった。

本計画では、震災以前に育まれていた湧水を中心とした暮らしを再生させるためのマスタープランを作成し、町方地区の象徴として地域アイデンティティである湧水を中心とした建築の設計を行った。



### ■ 湧水を中心としたマスタープランの作成と設計敷地の選定

自噴する湧水の地点をプロットし、ドローン図から疎密の関係性を探ることで、住居配置を行いマスタープランを作成した。そして、湧水が広く集中したエリアを大槌町町方地区の象徴として、様々な湧水景が広がり、地域資源の重要性を伝える場となる建築空間を計画する。



①自噴する湧水の位置をプロットし、ドローン三角分割を行い、湧水の疎密の関係性を探る。



②湧水が聞こえる距離 (25m) を密の空間 (赤)、高齢者等の日常生活圏域 (50m) を疎の空間 (青) とする。



③疎の空間の湧水を10~13戸を共有できるように住居配置を行う。自噴しない浅井戸では、公営住宅で汲み上げ利用する。

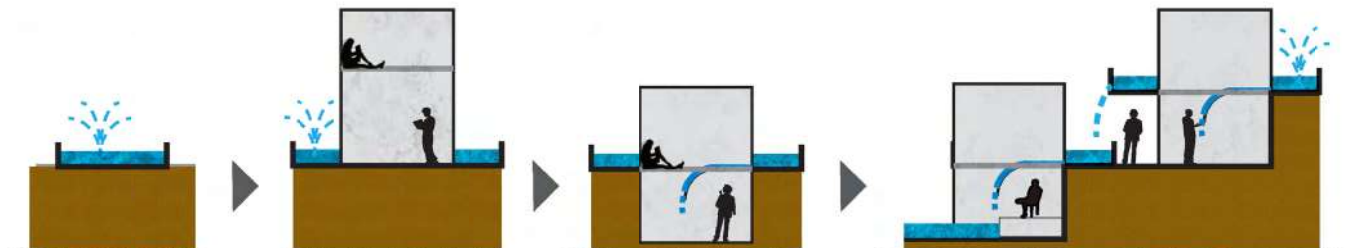


④密の空間の湧水は、比較的多くの人々が利用できる公共性の高い空間であるため、公共空間を配置していく。



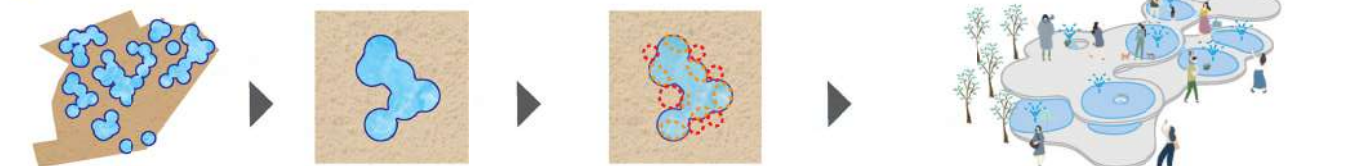
〈湧水を中心に作成したマスタープラン〉

### ■ 断面形状ダイアグラム：湧水を巡らせ、人と湧水の距離を近づける操作



①湧水の自噴を許容し、湧水を溢れ出させ、貯めていく。  
②溢れ出した湧水に対して建築を挿入し、湧水と生活の場を融合させる。  
③建築のボリュームを抑え、内部へ湧水を流し込み、内部の活動へ作用する。  
④勾配に沿ったボリュームを配置することで、時には建物を越境して流れ込みながら、湧水が敷地全体を巡ることで、人のふるまいと呼応しながら様々な居場所を生み出す。

### ■ 平面形状ダイアグラム：曲面の連続による凹凸に居場所を生む操作



①既存の湧水による池の体積を基準に、半径12mの溢れ出しを湧水の勢力圏としてまとまりを捉える。  
②機能を与え、周囲との関係性や湧水の流し方などをスタディし、有機的に変形させながら建築の形を変形させる。  
③スケールが異なる凹凸に対して、流れる・落ちる・貯まるなどの湧水のふるまいを促すことで、人や生物の居場所を生み出していく。  
④二層のスラブを異なる曲面へ変形させることで、立体的な関係性を作りながら、湧水のふるまいがヒューマンスケールで人々のふるまいへ影響を与え、湧水景の連続がランドスケープとして風景を生み、街の象徴として人々の集う場所となる。



所在地：岩手県上閉伊郡大槌町町方地区  
 主な用途：複合施設  
 敷地面積：54389㎡  
 建築面積：20213㎡  
 延床面積：27801㎡  
 キーワード：地域資源、湧水、commons

Location: Machikata district, Otsuchi Town Kamihei Country, Iwate Prefecture  
 Main Use: Composite Facilities  
 Site Area: 54,389㎡  
 Building Floor Area: 20,213㎡  
 Total Floor Area: 27,801㎡  
 Keywords: Local Resources, Spring Water, Commons

配置図兼2階平面図 GL+1500 (S=1:1600)



①生産販売エリアでは、2階で地元住民が生産加工を行いながら、1階の市場に訪れる人々と交わる。



②農業生産支援エリアでは、住民たちが利用しながら来訪者の休憩場所としても利用される。



③飲食エリアではスラブのレベル差が、湧水の水量による変化を立体的に表し、それにより生まれる多様な場所を巡る。

飲食エリア断面図 (S=1:400)

